

2019 年度 愛知学泉短期大学シラバス

科目番号	科目名	担当者名	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
52307	保育内容(言葉) Teaching Methods of Child-care Contents(Language)	児玉 珠美	専門	1	必修	1年後期

科目の概要

本科目においては、領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、前期「幼児と言葉」で学んだ子どもの言葉の発達に即して、言葉を育む保育活動を考案する計画力と実践力を身に付けることを目的とする。園生活における様々な子どもの言葉の問題の事例を通して、新たな生命である乳幼児が生きる意志と歓びを感じることができる保育者の言葉のかけ方や援助方法について考える。子どもが言葉で伝え、友だちや先生と心を通わせる楽しさを味わえる保育活動について学ぶ。また、絵本の読み聞かせやごっこ遊び等の教材を活用し、子どもたちが言葉による伝え合いの楽しさを実感できる遊びを援助していく実践力を模擬保育を通して習得する。

学修内容	到達目標
①領域「言葉」のねらい及び内容と指導上の留意点と評価の考え方を理解する。 ②子どもの言葉を受け止め、表現を豊かにしていく保育者の援助や指導について、保育場面の事例を通して学ぶ。 ③子どもの言葉の表現を育む教材や情報機器を活かした保育指導案を作成し、模擬保育を通して実践的に学ぶ。 ④子どもをめぐる言葉の現代的課題について学び、保育活動の向上に向けて取り組む実践について考える。	①領域「言葉」のねらい及び内容と指導上の留意点と評価の考え方を理解できる。 ②子どもの言葉を受け止め、表現を豊かにしていく保育者の援助や指導について、保育場面の事例を通して考察することができる。 ③子どもの言葉の表現を育む教材や情報機器を活かした保育指導案を作成し、模擬保育を通して実践することができる。 ④子どもをめぐる言葉の現代的課題について学び、保育活動の向上に向けて取り組む実践について考えることができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素

学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例

前に踏み出す力	主体性	自分自身の言語活動をみつめなおし、保育者として子どもたちのモデルとなるような言葉を日常的に使う努力をする。
	働きかけ力	自分の意見の異なる他者に対しても、積極的に語りかけ、対話をしていく努力をする。
	実行力	課題レポートに、主体的かつ積極的に取り組みことができる。
考え抜く力	課題発見力	乳幼児の言葉を育むために、何をしていくべきか、常に省察し、課題を見出していく姿勢を持つ。
	計画力	課題等に計画的に取り組み、提出期限を守ることができる。
	創造力	乳幼児が楽しめる言葉を使った遊び等を考案していくことができる。
チームで働く力	発信力	授業中にまわりが理解しやすいように、自分の意見を整理しながら、述べるることができる。
	傾聴力	授業中は、他者の発言に集中し、自分と異なる意見を尊重することができる。
	柔軟性	グループ討論等において、他者の言動を受け止め、他者を援助していくことができる。
	状況把握力	グループ討論等において、自分の役割を判断し、的確な言動ができる。
	規律性	集団で学習する意味を理解し、自己及び他者の人権と学習権利を遵守することができる。
	ストレスコントロール力	感情的に意見が対立した場合も、自身の感情を抑制し、冷静になる方法を持っている。

テキスト及び参考文献

テキスト：川勝泰介他編著『ことばの表現力を育む児童文化』 萌文書林、教員の作成プリント
参考文献：平成 31 年度改訂『保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領・幼稚園教育要領』 無藤隆監修 高濱裕子編『事例で学ぶ保育内容 言葉』 萌文書林

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：幼児と言葉・幼児と人間関係・幼児と環境・児童文化・乳児保育
資格との関連： 幼稚園教諭二種免許、保育士

学修上の助言	受講生とのルール
・日常生活の中で、言葉による伝え合いを大切にしていくこと。 ・子どもたちの言葉を育む多くの児童文化財に積極的に触れるよう努力すること。	・私語や勝手な言動をする学生は、授業を受ける権利はないとする。 ・授業態度(参加態度や出席状況)及び発表内容、提出レポートによって評価する。

【評価方法】

評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
筆記試験			
小テスト	5	① ✓ ② ③ ④	・保育所保育指針・幼保連携認定こども園教育保育要領・幼稚園教育要領における領域「言葉」のねらいと内容についての確認小テストを実施するので、内容を十分に理解し、記述できるようにしておくこと。
レポート	30	① ② ✓ ③ ✓ ④	・園生活における言葉の援助についての各事例学修終了後に、事例プリントに記入したレポートを提出するので、自分の考察と授業を通して学んだ内容を記述しておくこと。 ・模擬保育指導案及び実施後の振り返りシートを提出に向けて、テーマをしっかりと設定して取り組むようにすること。 ・DVD視聴後には、内容からの学びをレポートとしてまとめ、提出するので、視聴しながらメモ等をしっかりと取ること。
成果発表 (口頭・実技)	55	① ② ③ ✓ ④	・「言葉」を育む保育の実際の授業において、教材研究及び指導案を作成し、模擬保育を実施する。模擬保育が最も重要な課題及び評価対象となるので、日常的に言葉を育む教材等について調べておくこと。
作品			
社会人基礎力 (学修態度)	10	① ✓ ② ✓ ③ ✓ ④ ✓	(主体性) ・自分自身が言葉による伝え合いを大切にし、保育者として子どもたちのモデルとなるような言葉を日常的に使う努力をすることができる。 (実行力) ・課題に対し積極的な自主学修をし、できる限りの努力をもって完成させることができる。 (課題発見力) ・乳幼児が言葉に興味関心を持つための保育者としての語りかけ方や、遊び等について考え、課題を見出していく姿勢を持つことができる。 (創造力) ・幼児の言葉を育んでいく言葉遊びや児童文化を活用したオリジナリティある保育指導案を考案し、作成することができる。 (発信力・傾聴力) ・授業中に他者が理解しやすいように、自分の意見を整理しながら述べることができ、他者の発言に集中し、自分と異なる意見を尊重することができる。 (規律性) ・集団で学習する意味を理解し、自己及び他者の人権と学習権利を遵守することができる。
その他			
総合評価割合	100		

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
レベル S(秀)の基準は、小テスト、レポート、成果発表、社会人基礎力の総合計が90点以上とする。 レベル A(優)の基準は、小テスト、レポート2、成果発表、社会人基礎力の総合計が80点以上～90点未満とする。	レベル B(良)の基準は、小テスト、レポート、成果発表、社会人基礎力の総合計が70点以上80点未満とする。 レベル C(可)の基準は、小テスト、レポート、成果発表、社会人基礎力の総合計が60点以上、70点未満とする。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1週 /	保育所保育指針・幼保連携認定子ども園教育保育要領・幼稚園教育要領を通して、領域「言葉」のねらい及び内容を学ぶ。さらに、他領域との関連について理解する。	講義 グループ討議 授業内容の振り返りと質疑応答	保育所保育指針・幼保連携認定子ども園教育保育要領・幼稚園教育要領に提示されている領域言葉に関する事項について理解し、概説することができる。	(復習) 保育所保育指針・幼保連携認定子ども園教育保育要領・幼稚園教育要領に提示されている領域言葉について概説できるようにする。	90	主体性 傾聴力 規律性 実行力
2週 /	領域「言葉」における指導上の留意点や評価の考え方について学ぶ。さらに、グループディスカッションを通して、保育者の役割について考える。	前回の授業内容の振り返りと質疑応答 講義 グループ討議	領域「言葉」における指導上の留意点や評価の考え方について理解できる。また、子どもの言葉を取り、理解を深める。保育者の役割について考える。	(復習) 領域「言葉」における指導上の留意点や評価の考え方について振り返り、理解を深める。	90	主体性 傾聴力 発信力 実行力 規律性
3週 /	園生活における言葉の援助①(入園時)園生活になじめない子どもの事例を通して、言葉にならない子どもの表現を受け止める保育者援助のあり方について学ぶ。	前回の授業内容の振り返りと質疑応答 発表 全体討議 講義	園生活になじめない子どもの事例について考察し、言葉にならない子どもの表現を受け止める保育者援助のあり方について理解することができる。	(予習) 事前配布プリントの事例について、保育者としての捉え方及び対応方法について考え、記入しておく。	90	主体性 傾聴力 発信力 実行力 規律性
4週 /	園生活における言葉の援助②(子ども同士の遊び場面)言葉による伝え合いがうまくできない子どもに関する事例を通して、援助方法を学ぶ。	発表 全体討議 講義	言葉による伝え合いがうまくできない場面の事例について考察し、援助方法を理解することができる。	(予習) 事前配布プリントの事例について、保育者としての対応方法について考え、記入しておく。	90	主体性 実行力 発信力 実行力 規律性
5週 /	園生活における言葉の援助③(子どもの集団遊びの場面)子ども同士の言葉のトラブルの事例を通して、他者の気持ちを聞くことの大切さに着付けさせる援助方法を学ぶ。	前回の授業内容の振り返りと質疑応答 発表 全体討議 講義	子どもの仲間同士の言葉のトラブル等について、保育者としての対応を考え、自分なりの解決方法を見出すことができる。	(予習) 事前配布プリントの事例について、保育者としての対応方法について考え、記入しておく。	90	主体性 実行力 発信力 規律性
6週 /	園生活における言葉の援助④(子ども同士の話し合いの場面)なかまと話し合い、イメージが共有できることの楽しさに気が付く援助方法を学ぶ。	前回の授業内容の振り返りと質疑応答 発表 全体討議 講義	仲間と話し合い、イメージが共有できることの楽しさに気が付くための、保育者の言葉かけや援助方法について考察し、理解できる。	(予習) 事前配布プリントの事例について、保育者としての捉え方及び対応方法について考え、記入しておく。	90	主体性 実行力 発信力 実行力 規律性
7週 /	遊びを通して子どもたちが言葉を育んでいく様子と保育者の援助のあり方を、DVD 視聴を通して学ぶ。	前回の授業内容の振り返りと質疑応答 DVD 視聴	DVD 視聴を通して、子どもたちの言葉を育む保育者の視点について理解し、レポートにまとめることができる。	(復習) DVD から学んだことをレポートとしてまとめ、自身の今後の課題を明らかにする。	90	傾聴力 実行力 規律性 課題発見力
8週 /	子どもたちが生活や遊びの中で言葉を育むための環境構成、教材、情報機器の活用法について学ぶ。	前回の授業内容の振り返りと質疑応答 講義	子どもたちが生活や遊びの中で言葉を育むための環境構成、教材、情報機器の活用法について理解できる。	(復習) 授業内容を見直し、言葉を育む教材等の活用法について概説できるようにする。	90	傾聴力 規律性 主体性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9週 /	「言葉」を育む保育の実際① 模擬保育に向けての教材研究をし、保育計画を作成する。子どもの言葉が創る「ごっこ遊び」「劇遊び」へと展開する保育活動の指導案をグループごとに作成する。	前回の授業内容の振り返りと質疑応答 グループ討議及び作業	模擬保育に向けての教材研究をし、保育計画を作成することができる。グループの一員として責任を持って作成活動に参加することができる。	(予習) 対象年齢や活用したい教材について自分なりの意見をまとめておく。 (復習) 発表に向けての準備をする。	90	主体性 創造力 実行力 発信力 規律性
10週 /	「言葉」を育む保育の実際② (前半グループ)作成した指導案をもとに、グループごとに模擬保育の実施をする。終了後に各グループの模擬保育について振り返る。	前回の授業内容の振り返りと質疑応答 グループ発表 全体討議	グループの一員として責任を持って発表に参加することができる。保育者の視点から質疑応答ができる。	(復習) 模擬保育の実施できた内容を質疑応答を振り返り、気が付いた点について考察しまとめる。	90	主体性 傾聴力 発信力 規律性 創造力
11週 /	「言葉」を育む保育の実際③ (後半グループ)作成した指導案をもとに、各グループごとに模擬保育の実施をする。終了後に各グループの模擬保育について振り返る。	前回の授業内容の振り返りと質疑応答 グループ発表 全体討議	グループの一員として責任を持って発表に参加することができる。保育者の視点から質疑応答ができる。	(復習) 模擬保育の実施できた内容を質疑応答を振り返り、気が付いた点について考察しまとめる。	90	主体性 傾聴力 発信力 規律性 創造力
12週 /	各グループ発表についてのレポート内容を通して、指導案と保育の実践について振り返りをする。全体討議と教員からの助言等を行う。言葉を育む指導案作成と実践後の振り返りを通して、保育活動の改善をめざす保育者の姿勢を身に付けていく。	前回の授業内容の振り返りと質疑応答 グループ発表 全体討議	グループ及び全体の意見を通して、模擬保育の振り返りを行うことができる。振り返り内容を活かした指導案の改善をしていくこととする保育者の姿勢を持つことができる。	(復習) 各グループの模擬保育についての全体討議及び教員の助言をもとに、指導案の改善点を明らかにし、振り返りシートにまとめる。	90	主体性 傾聴力 発信力 創造力 規律性
13週 /	文字への関心を高め、文字で伝える楽しさを生み出す環境構成について考え、学ぶ。保育現場における言葉の指導と小学校の教科との繋がりについて学ぶ。	前回の授業内容の振り返りと質疑応答 講義 グループ討議	文字で伝える楽しさを生み出す環境構成について理解できる。保育現場における言葉の指導と小学校の教科との繋がりについて理解できる。	(復習) 授業内容を振り返り、園生活における文字環境の工夫等についてさらに調べる。	90	傾聴力 規律性 発信力 主体性 規律性
14週 /	現代社会における子どもをめぐる言葉の問題 (メディアと言葉や言葉の遅れ)について考察し、保育者としての視点を学ぶ。	前回の授業内容の振り返りと質疑応答 講義	事前のレポート課題に対し、自分の力で取り組み、授業を通して保育者としての視点で見つめなおすことができる。	(予習) 現代における子どもを取り巻く言葉の問題を一点取り上げ、事前レポートとしてまとめる。	90	実行力 主体性 課題発見力 規律性
15週 /	授業内容を振り返り、理解が不十分である点についてグループで討議する。討議内容をふまえて、言葉を育む指導について、保育者をめざす上での今後の課題を見出し、振り返りシートに記述する。	前回の授業内容の振り返りと質疑応答 グループ討議 振り返りシート記述	授業内容を振り返り、理解が不十分な点について見直し、今後の課題を見出すことができる。	(予習) これまでの授業内容を振り返り、理解が不十分な点について確認しておく。	90	傾聴力 発信力 実行力 課題発見力 規律性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力